

## 大阪市立中学校生徒を対象としたヤングケアラー実態調査 (家庭生活と学校生活に関する調査)に係る調査結果速報のポイント

### (前提について)

- ・速報の値等は、データ入力完了時点の数値をもとに作成（確定数値の公表は6月頃を予定）
- ・令和2年度に実施された国全国調査と本調査では、尋ね方、ヤングケアラーとみなす条件が異なるため、単純な数値の比較はできない（国全国調査の数値は参考に記載したもの）。
- ・ヤングケアラーとみなす条件は「ケアを要する家族がいる」ということ、その上で「ケアを担っている」ということの2つが挙げられ、その中には軽度のケースから重度のケースまで存在している。
- ・本調査では、第1の条件である家族にケアが必要な人がいるかを尋ね、そのうえで第2の条件である自分自身がケアを担っているかを尋ねており、いずれの質問にも「はい」と回答したものをヤングケアラーとみなして集計している。  
（参考）国全国調査では、「家族の中にあなたが世話をしている家族がいるか」を尋ね、「お世話とは本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話」と説明を加えている。ある一定のレベルの世話を担うケースを対象としていること、ケアを要する家族の有無については厳密には尋ねていないことが本調査と異なる点である。

### (調査手法について)

- ・授業時間等を活用して実施（無記名・自記式質問紙調査）  
（参考）国全国調査：QRコード等を記載した調査概要を配布、生徒が個別にWeb回答

### (調査結果について)

- ・回収数が多く（46,321人）、有効回答率も高い（45,340人：87.3%）
- ・本調査上のヤングケアラーの存在割合は9.2%  
（1か月に数日、1時間未満のケアなど、ケア負担があまり大きくないと考えられるケースを多く含む）
- ・週に1日以上ケアしているケースに限定した場合、存在割合は6.3%
- ・学校がある日に1時間以上ケアをしているケースに限定した場合、存在割合は3.3%
- ・学校がない日では学校がある日と比べて、ケア時間が長時間になる傾向があり、8時間以上が1割近く（かなりの負荷がかかっていると考えられるケースも確認）

⇒ 市域の実情を詳細に把握した基礎データを回収できたため、引き続き、専門家研究チームと調査結果の分析を進める（公表6月頃）

# 大阪市立中学校生徒を対象としたヤングケアラー実態調査 (家庭生活と学校生活に関する調査)

調査結果速報 ※

令和4年3月9日

## ■調査者

大阪市

大阪市教育委員会

宮川 雅充 (関西学院大学)

南 多恵子 (京都光華女子大学)

濱島 淑恵 (大阪歯科大学)

※調査結果速報の値等は、データ入力完了時点の数値をもとに作成。併行して、データの確認作業を進めており、確定数値の公表は6月頃を予定。

本調査は科学研究費補助金（課題番号：20H01606）による研究成果の一部である。

## 調査の概要

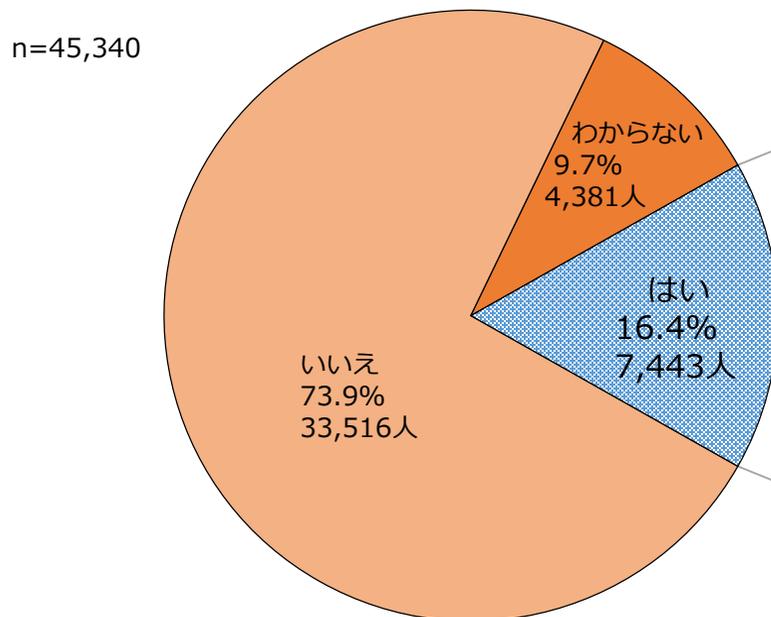
- ▶ 対 象      大阪市立中学校の1年生～3年生  
                 51,912人（令和3年12月末現在）
- ▶ 実施方法      授業時間等を活用して実施（無記名・自記式質問紙調査）
- ▶ 実施期間      令和3年11月中旬から令和4年1月上旬
- ▶ 調査項目
  - ・基本事項（年齢、性別、学年、同居家族など）
  - ・普段の生活と健康状態（日常生活の状況、生活満足感、健康状態など）
  - ・学校生活（欠席、遅刻、友人関係の状況、進路についてなど）
  - ・家族のケア（要ケア家族の有無、状態、ケアの内容、期間、頻度、時間など）
  - ・悩みや困りごと
  - ・ヤングケアラーに関する認識について
- ▶ 調査票回収数      46,321人
- ▶ 有効回答数      45,340人（有効回答率 87.3%）

## 速報値の概要

- ◆ ヤングケアラーの存在割合は約1割
  - ・ 「家族にケアが必要な人がいるか」、「自分がその人のケアを行っているか」を順に質問し、いずれにも「はい」と答えた生徒（ヤングケアラーとみなした生徒）の存在割合は9.2%であった。
- ◆ 軽度の者が多く含まれるが、負荷が大きいヤングケアラーも一定数いた
  - ・ 1か月に数日、1時間未満のケアなど、ケア負担があまり大きくないと考えられるケースが多く含まれていた。
  - ・ なお、週に1日以上ケアをしているケースに限定した場合は、存在割合は6.3%。
  - ・ 毎日ケアをしているケースは約4割、学校がある日に2時間以上は約2割になった。
  - ・ 学校がない日ではケア時間が長時間になる傾向があり、8時間以上が1割近くおり、かなりの負荷がかかっていると考えられるケースも確認された（存在割合0.7%）。
- ◆ 要ケア家族とケアの内容
  - ・ 全国調査と同様に、弟・妹が最も多いが、祖父母、父母も一定数ずつみられ、その状態は若い、高齢である、病気、障がい等を有する等様々である（今後、ケアの相手別の集計が必要）。
  - ・ ケアの内容は、話し相手、見守り、年下のきょうだいの世話・遊び相手、家事といったケアが多いが、感情面のサポート、力仕事、外出・通院の付き添い、身体的な介護、夜間のケアなどを行っているケースも一定数いた。
- ◆ 学校生活、友人関係への影響がみられ、勉強のサポートが必要とされている
  - ・ ケアをしている者の方が、遅刻、欠席、宿題忘れが多い傾向がみられ、友人関係、家庭の経済的な状況、自分の時間がないといった悩みを抱えている者が多かった。
  - ・ ほしいサポート・支援は、勉強のサポートが最も多く（約5割）、その他、家族や自分のことについて、一緒に考えてくれる支援、経済的な支援、家事のサポート等があげられていた。なお、家族として当たり前のことをしているだけ、と考えている者が多く、約3割いた。

## 家族のケアをしている状況①

あなたの家族には、高齢である、幼い、病気や障がいがある、精神的に不安定、日本語が苦手などのために、介護、手伝い、精神的サポートが必要な人はいますか。



あなた自身が介護、お手伝い、精神的サポートをしていますか

- ・7,443人のうち、4,151人が「している」と回答
- ・すなわち、ヤングケアラーと考えられる者は有効回答数45,340人の **9.2%**

- ・ケアを必要とする家族（要ケア家族）がいるか否かを尋ねたところ、「はい」と回答した者は16.4%であり、そのうち自分自身がケアを「している」と回答した者は55.8%であった。
- ・ケアを「している」と回答した者すべてをヤングケアラーとみなした場合、ヤングケアラーの存在割合は約9.2%であった。

《参考》全国調査

R3.3「ヤングケアラーの実態に関する調査研究」  
三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)

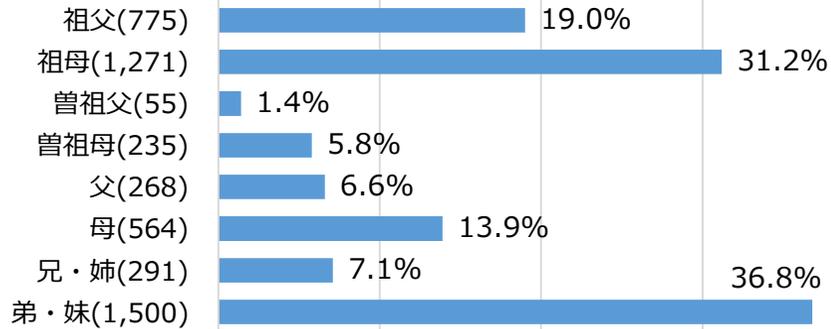
◆世話(※)をしている家族が「いる」と回答した割合  
**中学2年生 5.7%**

※：“本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などをすること”と定義

## 家族のケアをしている状況②

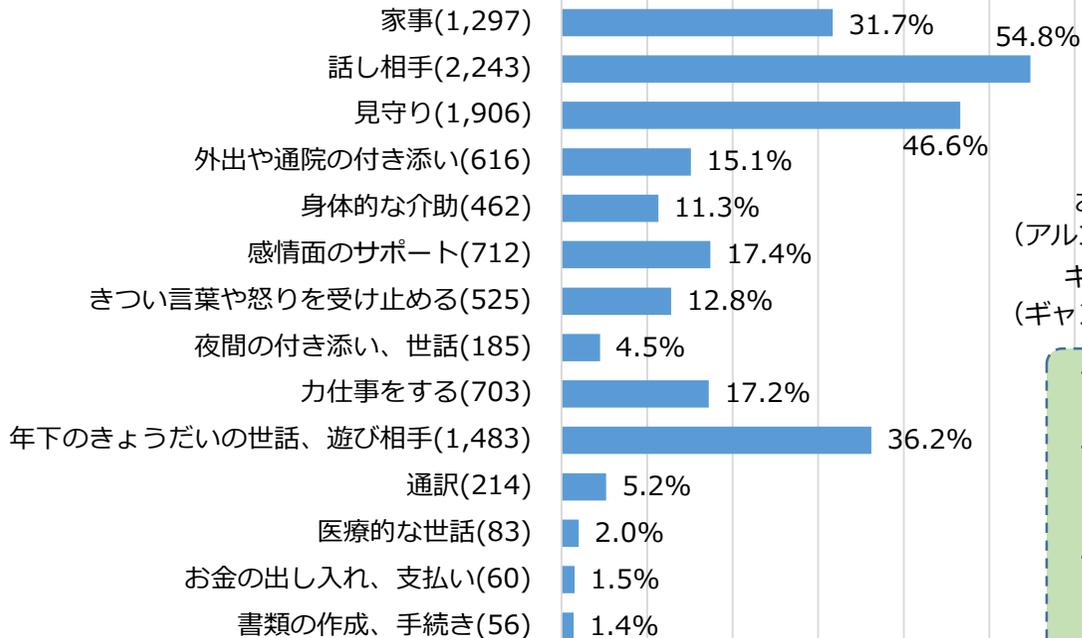
### ケアをしている相手 (複数選択あり)

n=4,072



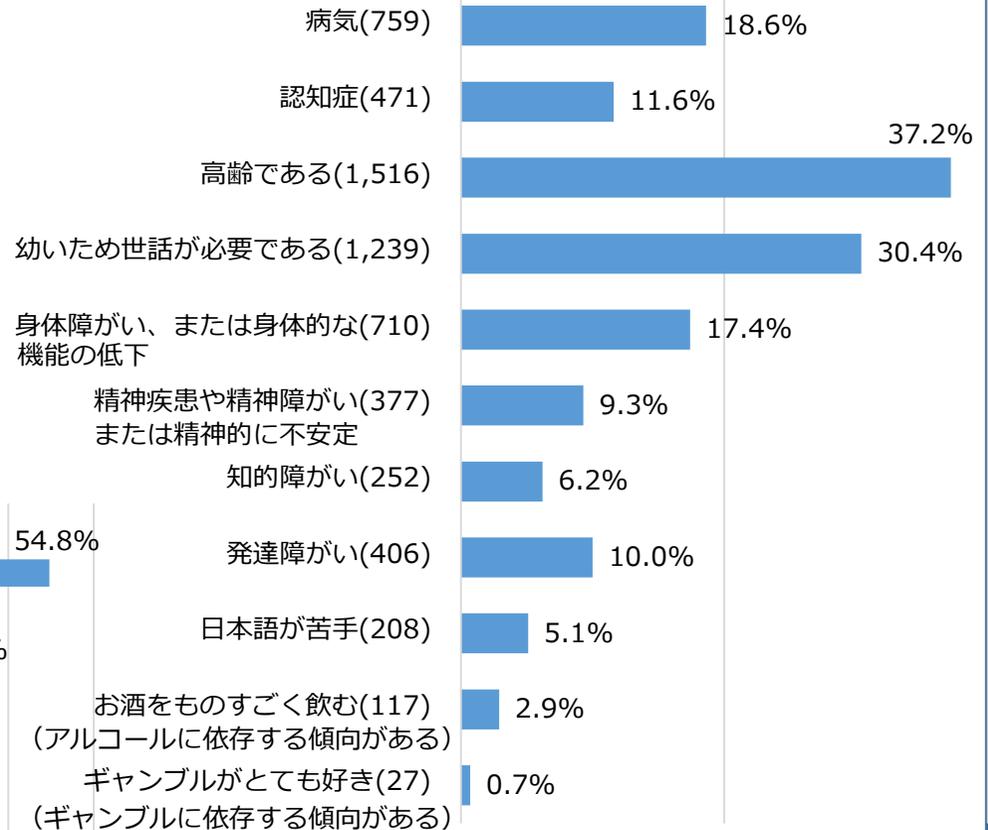
### どのようなケアをしているか (複数選択あり)

n=4,093



### ケアをしている相手の状態 (複数選択あり)

n=4,075



- ・ケアをしている相手は弟・妹が最も多く (36.8%)、次いで祖母 (31.2%)、祖父 (19.0%)、母 (13.9%) であった。
- ・ケアをしている相手の状態は、高齢であるが最も多く (37.2%)、次いで幼いため世話が必要である(30.4%)、病気 (18.6%)、身体障がい、または身体的な機能の低下 (17.4%) であった。
- ・ケアの内容は、話し相手 (54.8%) が最も多く、次いで見守り(46.6%)、年下のきょうだいの世話、遊び相手 (36.2%)、家事 (31.7%) であった。

# 家族のケアをしている状況③

- ・ケアをしている頻度は毎日が最も多く（37.0%）、「1か月に数日」と回答した生徒が次いで多かった。
- ・ケアの時間は、学校がある日、学校がない日ともに1時間未満が最も多かった（前者50.8%、後者31.1%）。一方、長時間のケアを担っている者もあり、学校がない日の方がケアの時間が長い傾向がみられ、8時間以上と回答した者が8.2%いた。

## 頻度

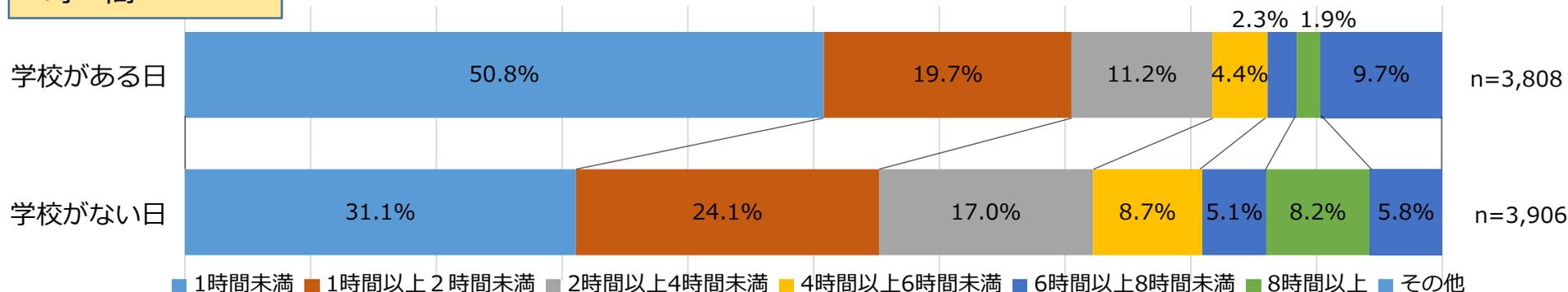


	1年に数日	1か月に数日	週に1日	週に2、3日	週に4、5日	毎日	その他
回答数	310	662	345	524	507	1,479	166
割合	7.8%	16.6%	8.6%	13.1%	12.7%	37.0%	4.2%

大阪市 71.5%

《参考》 全国調査 77.4%\*  
\*週に1~2日、週に3~5日、ほぼ毎日の割合の計

## 時間



	1時間未満	1時間以上2時間未満	2時間以上4時間未満	4時間以上6時間未満	6時間以上8時間未満	8時間以上	その他
学校がある日	1,934	751	428	167	87	71	370
	50.8%	19.7%	11.2%	4.4%	2.3%	1.9%	9.7%
学校がない日	1,215	943	663	338	200	322	225
	31.1%	24.1%	17.0%	8.7%	5.1%	8.2%	5.8%

大阪市 19.8%

《参考》 全国調査 33.5%\*  
\*3~7時間未満、7時間以上の割合の計

# 学校生活の状況

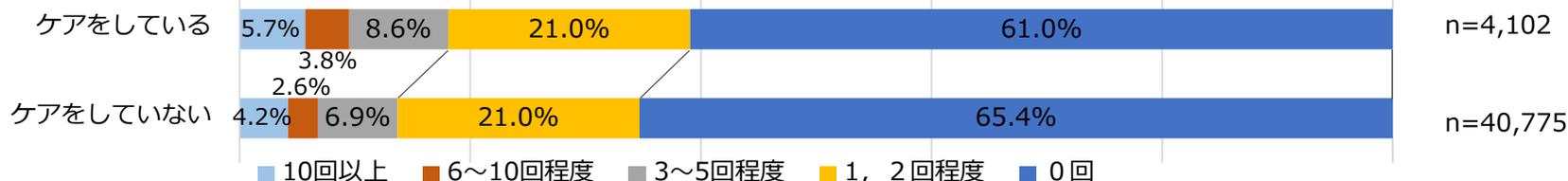
・ケアをしているの方が、していない者と比べて、欠席の日数、遅刻の回数が多く、宿題を忘れる回数が多い傾向がみられた。  
 ・ケアの役割が学校生活に影響を及ぼしている可能性が示唆された。

## 今年度の1学期に学校を欠席したことは何日ありましたか



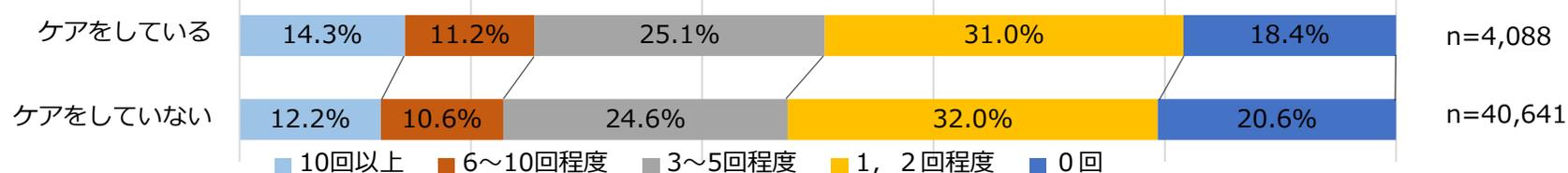
	10日以上	6~10日程度	3~5日程度	1, 2日程度	0日
ケアをしている	9.5%(385)	6.3%(253)	16.3%(661)	30.1%(1,216)	37.8%(1,531)
ケアをしていない	5.7%(2,318)	4.8%(1,927)	14.6%(5,879)	30.5%(12,291)	44.4%(17,905)

## 今年度の1学期に学校を遅刻したことは何回ありましたか



	10回以上	6~10回程度	3~5回程度	1, 2回程度	0回
ケアをしている	5.7%(233)	3.8%(154)	8.6%(351)	21.0%(862)	61.0%(2,502)
ケアをしていない	4.2%(1,693)	2.6%(1,048)	6.9%(2,821)	21.0%(8,552)	65.4%(26,661)

## 今年度の1学期に宿題を忘れたことは何回ありましたか

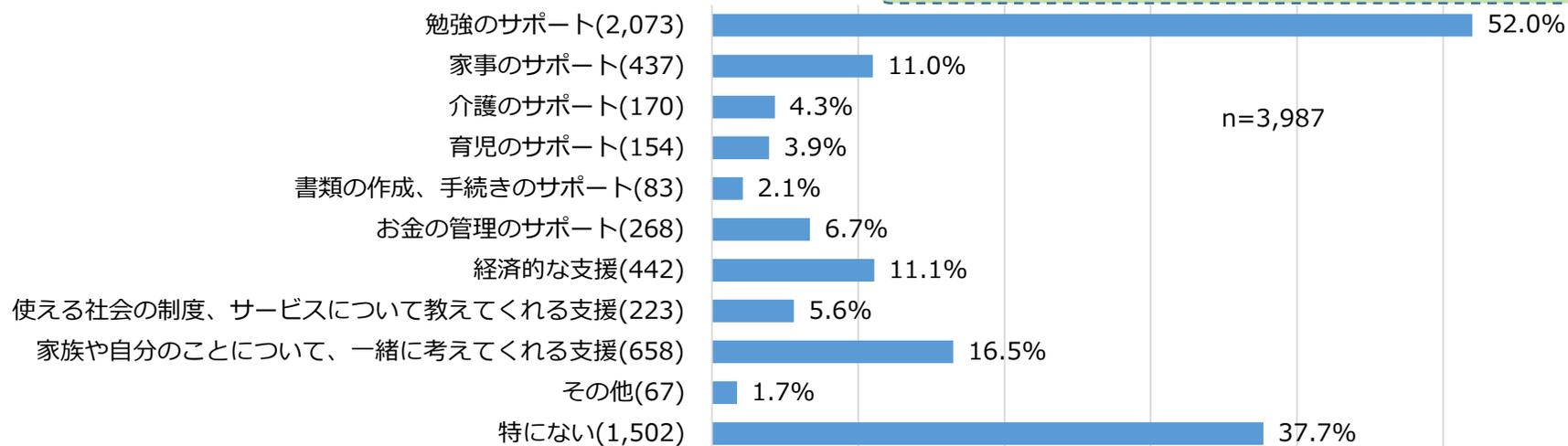


	10回以上	6~10回程度	3~5回程度	1, 2回程度	0回
ケアをしている	14.3%(583)	11.2%(458)	25.1%(1,027)	31.0%(1,269)	18.4%(751)
ケアをしていない	12.2%(4,971)	10.6%(4,306)	24.6%(9,999)	32.0%(12,998)	20.6%(8,367)

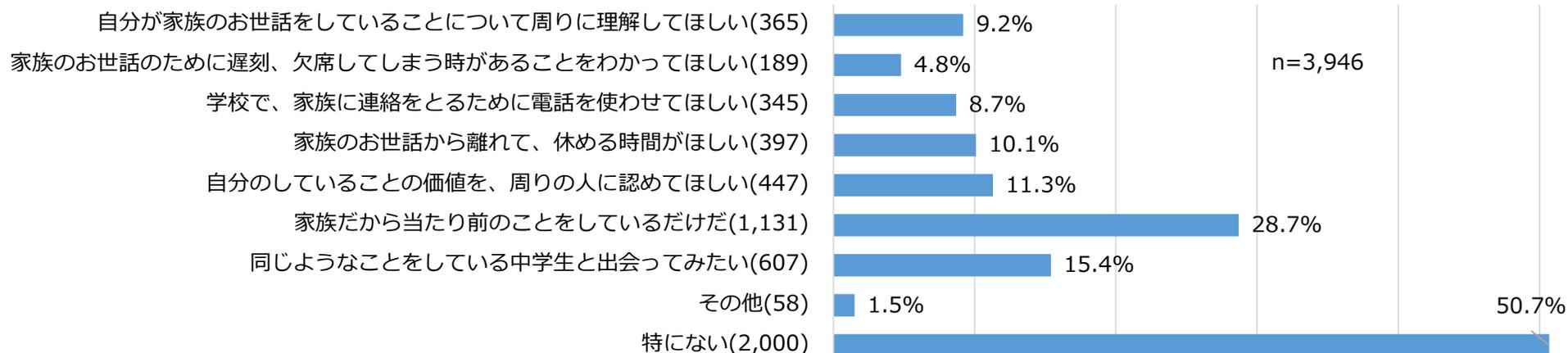
## 悩みや困りごと①

あなたが、今、ほしいと思うサポートや支援（複数選択あり）

- ・今、ほしいと思うサポート、支援では勉強のサポートが最も多く(52.0%)、特にないと回答している者も4割近くを占めた。
- ・思ったことがあることとしては、特にないが最も多かった(50.7%)が、家族だから当たり前のことをしているだけだという回答が多く(28.7%)次いで同じようなことをしている中学生と出会ってみたい(15.4%)であった。



あなたが、介護、お手伝い、精神的サポートをしてきて、学校、社会、周囲の人などに対して思ったことがあること（複数選択あり）

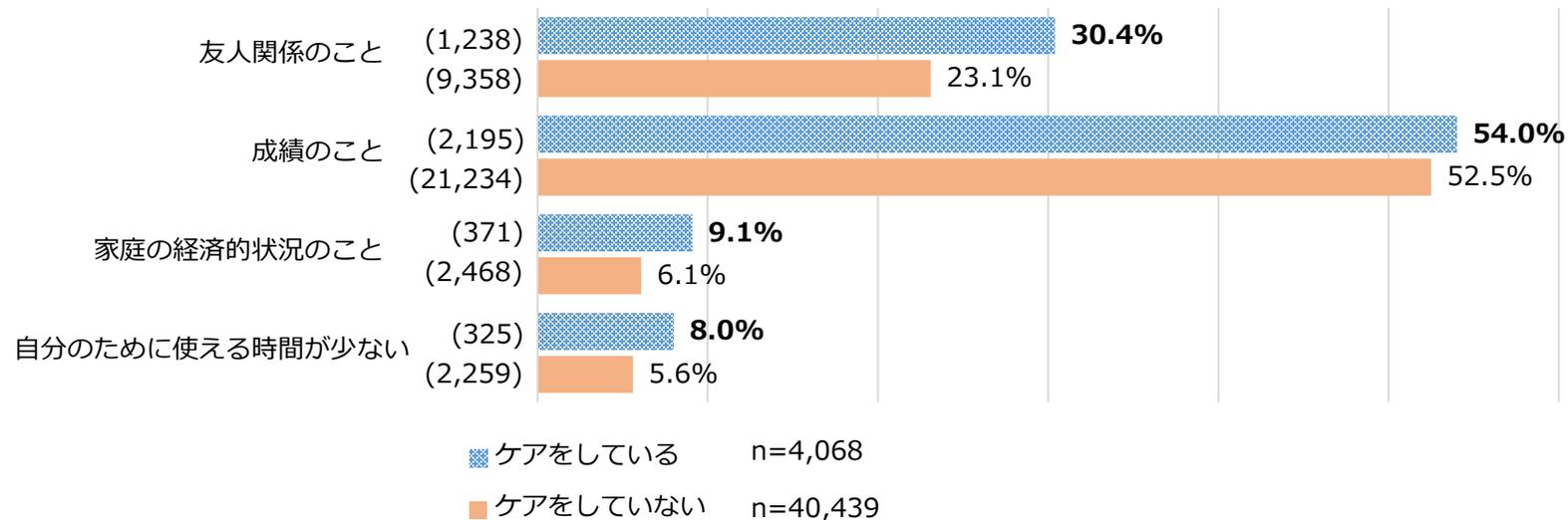


## 悩みや困りごと②

家族のケア等を「している」生徒と「していない」生徒別に集計

- ・悩みや困りごとについては、ケアをしている者の方が、友人関係、家庭の経済的状況、自分のために使える時間が少ない、を挙げる者が多かった。
- ・一方で、成績については、顕著な差は認められなかった。

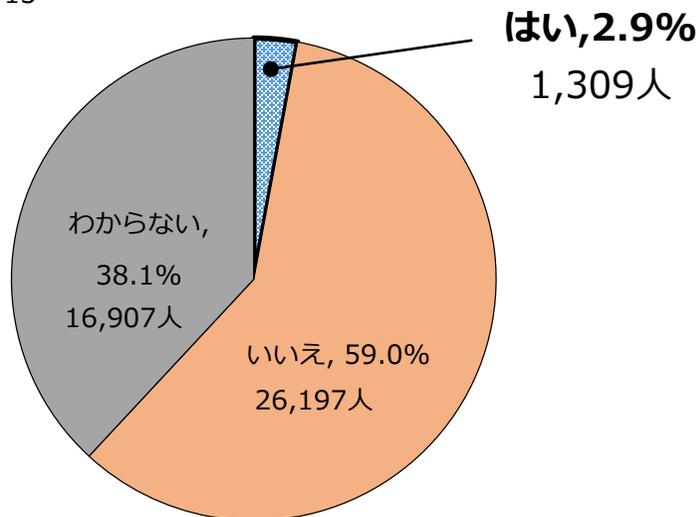
### ケアの有無による悩みや困りごとについて（複数選択あり）



## ヤングケアラーに関する認識

あなたは、自分を「ヤングケアラー」だと思えますか

n=44,413

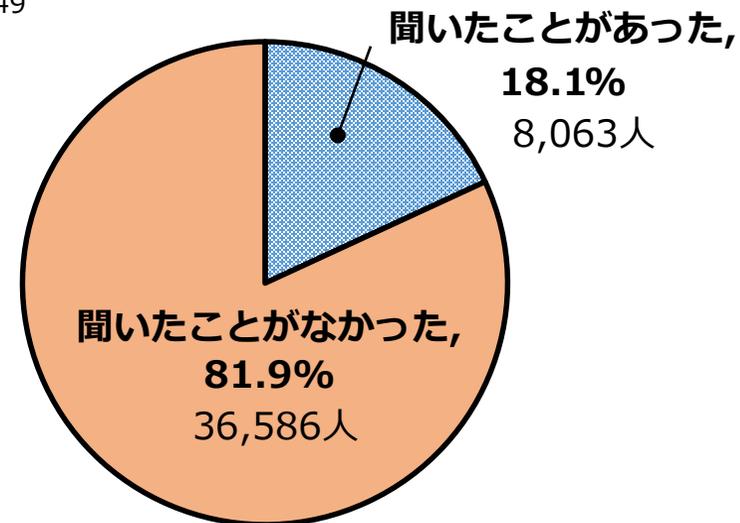


《参考》全国調査

- ◆ヤングケアラーと自覚している子ども  
中学2年生 1.8%

「ヤングケアラー」という言葉を以前に聞いたことがありましたか

n=44,649



《参考》全国調査

- ◆聞いたことはない  
中学2年生 84.2%

- ・ヤングケアラーの定義を示した上で、自分をヤングケアラーだと思うか否かを尋ねたところ、「はい」と回答したものは2.9%であった。
- ・ヤングケアラーという言葉以前に聞いたことがあったか否かを尋ねたところ、「聞いたことがあった」と回答した者は18.1%であり、約8割は「聞いたことがなかった」と回答した。